

## 面接授業の実施に関する当面の対応マニュアル (5月25日時点)

### 1. 感染防止意識の啓発

#### (1) 体調管理

- ・ 毎朝の体温測定を行う。
- ・ 風邪症状がある場合は、自宅で休養する。
- ・ 十分な睡眠、適度な運動やバランスの取れた食事を心がける。

#### (2) 手洗いの励行

- ・ 朝の登校時や教室移動をしたときは、手洗いを徹底する。

#### (3) マスクの着用

- ・ 教員、学生ともに、マスクの着用を徹底する。
- ・ 教員、学生ともに、マスクの持参忘れ・汚損・紛失等に備えて、予備のマスクを携帯しておく。
- ・ 市販マスクが入手困難である場合は、手作りのマスクを着用する。

### 2. 教室の環境への配慮

各授業で、感染拡大のリスク（①換気の悪い密閉空間、②人が密集している、③近距離での会話や発声 の3条件が同時に重なった場）の低減に努める。

#### (1) 衛生管理

- ・ 各教室の出入口にアルコール消毒液を設置する。
- ・ ピアノ、パソコンを使用する授業では、使用前後の手洗いを徹底するよう、教員から学生に指導するとともに、適宜、消毒用のペーパータオル等を設置する。
- ・ その他の教具を使用する授業では、使用前後の手洗いを徹底するよう、教員から学生に指導する。

#### (2) 換気

- ・ 教室の窓の端を開けるなどして、常時換気を行う。
- ・ 授業の途中で（例：90分の授業であれば45分経過した時点）、10分程度の大換気（窓全面の開放や出入口扉の開放）を行う。

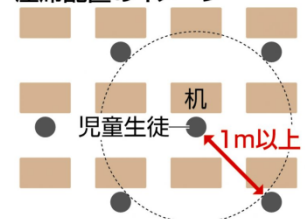
#### (3) プリント等の配布物

- ・ 配布物を介した感染リスク低減のため、プリント等を配布する場合は、一斉に前から後ろに回したりせず、一人ひとり配るか、教室の前において各自もっていく方法を取るなど、可能な範囲で工夫する。

#### (4) 座席配置

- ・ 学生の座席配置については、飛沫感染防止のため、マスクを着用した上で、本学では「厚生労働省が推奨する子どもの座席配置のイメージ」を参考に、学生相互が1メートル以上の間隔（又は1席空け）で着席することを基本とする。
- ・ 履修人数及び教室定員の都合により困難な場合も、可能な限りこの形態に近づける。
- ・ 上記の趣旨に基づき、教室を変更することがある。

厚生労働省が推奨する子どもの座席配置のイメージ



### 3. 演習科目、実技科目等

#### (1) 演習科目等

- ・ゼミナール、グループワーク、発声・会話練習等を伴う授業については、学生相互及び教員との距離、室内の換気等に配慮し、マスク着用の上、対面式で行うものは、できる限り避ける。

#### (2) 実技科目等

- ・音楽等の実技では、感染リスクを考慮し、実施内容や方法を工夫して行う。その場合においては、授業計画（シラバス）を変更することは差し支えない。また、ピアノ等楽器の使用前後に手洗いを徹底するよう、教員から学生に指導する。

ピアノの個別レッスンは、マスク着用の上、1教員が2室を交互に使って指導を行い、使用していない方の室では窓を開けて10分程度の換気を行う。

- ・体育等の実技では、感染リスクを考慮し、実施内容や方法を工夫して行う。その場合においては、授業計画（シラバス）を変更することは差し支えない。また、教具の使用前後に手洗いを徹底するよう、教員から学生に指導する。

マスクについては、運動時に熱中症や十分な呼吸ができなくなるリスクを考慮し、学生間の距離を十分に保つなどの対策をとることで、必ずしもマスク着用を必要としない。

- ・栄養等の実習では、感染リスクを考慮し、調理実習は当面見合わせて、演習授業に振り替える。その場合においては、授業計画（シラバス）を変更することは差し支えない。

### 4. フィールドワーク、学外演習等

- ・2週間前から、学生自身で毎日朝晩の体温を測り、その他体調を含めて記録する。（健康管理表、体調チェック表等）
- ・体調不良や感染が疑われる症状が出た場合は中止し、「名古屋柳城女子大学・名古屋柳城短期大学 新型コロナウイルス感染が疑われる場合の対応マニュアル」（2020年5月12日版）にそって対応する。

### 5. 出欠席の取り扱い

- ・学生本人やその家族等に、発熱や風邪の症状がみられる場合、感染が疑われる場合については、「新型コロナウイルスの感染が疑われる場合の出欠席の取り扱いについて」（2020年5月12日版）にそって対応する。

### 6. その他

- ・啓発ポスターを各教室及び自習室に掲示する。